

# セツトバックや保存を

## 防潮堤 志津川まち協が提言

南三陸町の志津川地区まちづくり協議会（及川善祐会長）が5日、町当局に中間提言書を提出した。防潮堤のセツトバックや被災したままの姿で残る防潮堤を震災遺構として保存することなどを求めている。

同協議会では高台移転、産業再生、公園の3部会に分かれ、約1年半にわたって議論を重ねてきた。今後も検討が必要な課題もあるが、ある程度進んでいる復興事業があるため、住民意見を反映させてもらおうと提言した。

提言書によると、旧松原公園付近に海拔8・7メートルで計画されている防潮堤は可能な限り陸側にセツトバックさせ、海と触れ合える空間を確保。津波で破壊された防潮堤の一部を遺構として残し、自然と災害を学ぶ場とすることを望んでいる。

八幡川の河川堤防については、川辺でのイベントが可能な長く幅広い遊歩道の整備を要望。新井田、水尻両河川も同様に親水性をもたせた造りを求めている。

町づくりを進める前提として、市街地全域に避難道、備蓄倉庫などを整備すべきとし、防災・防犯計画の策定も提言した。

佐藤町長はこれまでの各部会の会議に担当職員を出席させて意見反映に努めてきたことを説明し「制度上難しいものもある。しっかりと受け止めて町づくりを進めたい」と語った。

2013年12月7日付「三陸新報」1面②